

復興を支える命の道路

三陸道4車線化と春日PA完成式

シリーズ「学生同行ルポ 復興元年 弾み付く宮城」は、東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県の復興に向けた動きを、地元の人々とともに取り上げる。2回目のテーマは交通インフラ。三陸自動車道の仙台松島道路利府中～松島海岸IC春日PA完成式。春日PAの完成式が8月8日、利府町春日地区の春日PAであった。震災時に「命の道」として機能した三陸道は、被災した沿岸部の物流を強化する「復興道路」に位置づけられている。完成式に立ち会った学生一人が三陸道の整備進展をどう捉えたのか、村井嘉浩知事へのインタビューも交えて紹介する。

新たな4車線化区間は7月12日に利用が開始され、完成式はPAの開業に合わせて春日PA下り線で開かれた。取材には東北学院大教養学部4年の高間木裕貴さん(22)と木皿真奈美さん(22)が同行した。式は、宮城県、県道路公社、PA事業出店者の3団体の主催。主催者を代表して県道路公社の千葉三郎理事長は「仙台松島道路の安全性と利便性の向上を目指した事業。長年待ちこがれたPA

キングエリアも、有料区間で初めて設置された。被災地の復興を推進する役割を果たすことと式辞を述べた。知事代理の三浦秀一副知事はこの区間は復興のリーダーシッププロジェクトとして、加率的整備を進めてきた。復興道路としてはもちろん、本県の産業振興、地域活性化に大きく役立つ」と効果に期待を込めた。祝辞や事業概要説明に続

き、関係者がPAの建物を見てほしいと話した。今回4車線区間(幅20.5m)になったのは4月5日、2008年度に始まった仙台松島道路6期事業として、松島海岸～松島北IC間の7.5mも整備。LED照明、節水型トイレを採用するなど環境にも配慮した文化財展示室、復興パネルの展示もあり、さまざまな情報を発信する。春日PAの新設で、三陸道の管年PAまで約39

丸春日PA、県内の常磐道、三陸道、初めてのレストランや24時間営業のコンビニエンスストアを設置した。地場産品を販売し、宮城の食材を使った特産メニューも提供している。太陽光発電、LED照明、節水型トイレを採用するなど環境にも配慮した文化財展示室、復興パネルの展示もあり、さまざまな情報を発信する。春日PAの新設で、三陸道の管年PAまで約39

台園の高規格道路網にあるPA間の距離が短縮。休憩施設やトイレが解消された。式終了後、高間木さんと木皿さんは利府中ICから三陸道を南下。巨理ICまで視察し、津波を食い止めた仙台東部道路の防災道路としての役割をあらためて認識した。

木皿さんは「東部道路を挟んで沿岸部と内陸側は景色が違って見えた。道路がしっかり整備されていれば、他の地域でも津波の被害を減らすことができたかもしれない。私の家は仙台市若林区の沖野にあり、津波が近づくまで来た。東部道路がなかったらと思うと、ぞっとした」と実感を込めて話した。

県は沿岸防災ネットワークを強化する観点から、三陸道や常磐道などの整備を促進。防災と復興に機能を果たす高規格幹線道路網の充実を図る。みやぎ東北高速幹線道路など東西の連携軸形成も進め、地域連携や産業振興に役立てる。

シリーズ「学生同行ルポ 復興元年 弾み付く宮城」は、来年3月まで毎月第1日曜日の河北新報朝刊に掲載します。本年度内に7回程度を予定しており、次回10月のテーマは「防災・減災」を予定しています。企画は河北新報社事業部、協力は宮城県震災復興・企画部。



三陸道の新たな車線区間と春日PAの完成を祝ってテープカット。左から右へ、宮城県利府町の春日PA下り線



掛け替ええない社会資本

東北学院大教養学部4年 高間木裕貴さん
春日PAキングエリアは三陸道の待ち望まれていた。地産地消や観光の情報発信などに貢献し、期待に応えられる施設になるだろうと感じた。高規格道路が防災に一定の役割を果たすことも分かった。命を守る道路は掛け替ええない社会資本だ。

情報共有機能が心強い

東北学院大教養学部4年 木皿真奈美さん
道路は需要があつて造られる実用性を基本とした構造物だけれど、防災や減災に役立つという視点も欠かせないことが分かった。災害が一大事においては、情報を共有するの機能が備わっているのは心強い。

村井知事 学生とQ&A

経済効果が計り知れない 駆け上げれば命は助かる



学生の質問に答える村井知事＝宮城県庁

式典で多くの方が三陸道を「命の道」と言っていて、整備の必要性を強調した。震災後、重要性が増したのか。震災前は救急車が使う意味での「命の道」だったが、震災で本道に「命の道」として機能した。三陸道は津波を止めて堤防の役割を果たした。沿岸部の国道45号が被災し、物資が運べなくなったが、いち早く復旧した三陸道に人と物を運ぶことができた。高間木 復興後の高速道の役割をどう位置付けるのか。知事 道路ができて、物流の効果が一気に上がり、経済面で効果が計り知れない。

例えば気仙沼の物産を空港や仙台港に運び、輸出できる。もう一つの経済効果は観光。多くのお客さまを交通渋滞することなく、被災地にいらさうことができる。木皿 今回の震災を教訓に高速道避難場所にして、町の地場産品を販売し、三陸道の新鮮な水産物を使用した料理を提供。将来にわたって地域活性化に寄与できる施設にしたい。今回の震災ではボランティアの方がPAで情報交換していた。有事にはPAをボランティアセンターとしても活用できる。

知事 ストロ現象になる可能性はある。しかし、都市部への行き来が便利になったから、被災地にとまるとする可能性も十分ある。大切なのは地域の魅力を高めること。単なる復旧ではなく、復興を目指して被災地で次世代型のまちづくりを進めたい。木皿 春日PAはいろいろな工夫が凝らされている。知事 三陸道で初めての本格的PA。休憩所だけでなく、コンビニエンスストア、レストランもある。多くの方に利用してもらえようと思う。高間木 春日PAには情報発信拠点としての機能もある。知事 県内の観光情報を発信するPAになる。地元利府町の地場産品を販売し、三陸道の新鮮な水産物を使用した料理を提供。将来にわたって地域活性化に寄与できる施設にしたい。今回の震災ではボランティアの方がPAで情報交換していた。有事にはPAをボランティアセンターとしても活用できる。



三共グループ

私たちのふるさと—東北の復興を、ともに。

秋田で培った技術とノウハウで、宮城の復興をサポートいたします。

私たち三共グループは、総合建設業・三共株式会社を核として、秋田県を中心に土木・緑化・建築・設備・住宅事業に取り組んでまいりました。40年近い経験の中で培った技術とノウハウを、東日本大震災で大きな被害を被った地域の復興に役立てたい。そうした思いから、いま私たちは宮城の地に新たな一歩を刻みます。生活をとりまくあらゆる環境を視野に、郷土の明日を見据えること。みなさまのふるさと=宮城が、私たち三共グループのもう一つのふるさとになります。

私たち三共グループには、環境資源の有効活用による土壌改良・緑化事業の最新の技術とノウハウがあります。

三共グループでは、環境資源の有効活用による土壌改良・緑化事業に積極的に取り組んでいます。自然環境にやさしい有機系材料(杉・ヒノキの天然樹皮)を利用した土壌改良もその一つ。最新の技術とノウハウを、グラウンド・校庭・園庭の土壌改良や緑化工事等にお役立てください。詳細は弊社ホームページまで。
<http://sanken-web.co.jp>

世界が驚く復興目指せ! 新技術が築く未来の東北
建設技術公開
EE東北'12に出展!
ENGINEERING EXHIBITION TOHOKU'12
開催日: 10月24日(水)・25日(木)
会場: 夢メッセみやぎ ※入場無料

三共グループ仙台
三共株式会社
国土交通大臣 許可(特-24)第24529号
仙台支店 〒980-0802 仙台市青葉区二日町6-26 VIP 仙台二日ビル1F
TEL.022-393-5424
本社 〒018-0402 秋田県にかほ市平沢字出沢1番地1
TEL.0184-37-3055
注文住宅の Sankō 三光不動産株式会社
国土交通大臣(1)第8314号
仙台支店 〒980-0802 仙台市青葉区二日町6-26 VIP 仙台二日ビル1F
TEL.022-393-5413
本社 〒010-0914 秋田市保戸野千代町2-43
TEL.018-824-0021 ホームページ www.sankonet.co.jp
名取・美田園に9月22日(土)モデルハウスオープン!